

共通課題について

一九八一年の共通課題は次のとおり決定しました。

「農村計画——農村自治の課題の展開として」

これに決まるまでの経過およびこのテーマに関する運営委員会および宿題委員会での討議の概要を次に記します。

まず、総会の席上、アンケートをあつめたところ、「農村自治」に関する問題を希望するものが非常に多かった。また農村生活に関するもの、農村支配に関するものがあったが、「戦後自作農と自作農体制とは何であったか」また、「小農経営体制の問題と展望」というテーマもあった。さらに「農村計画」というテーマもあった。また、八二年が村研三十周年にあたることから、「八〇年代の農業農村」「第一回村研の共通課題は何であったか、それがどのような明らかになったか」という意見もあった。

このような意見を受けて、第一回運営委員会では、今までの農村自治というテーマを深める意味で、「農村自治の展望」が問題となったが、農村自治は三年間連続したテーマなので今回は主テーマには用いないことが確認され、「戦後自作農体制の検討」「農村体制の変貌と農村計画」「農村計画——小農経営体制の変貌と今後の農村の展望——」などの案が出されたが次回に持ち越された。

第二回運営委員会で最終的に前述のように「農村計画——農村自治の課題の展開として——」というテーマに決定した。これは三〇周年へのつなぎの意味もあり、福祉論的なものをも入れ、人間にも焦点をあて、農政の問題をも反映し、さらに農村自治の問題をさらに先へと展開する意味を含め、歴史的にも取り扱うことができるというような諸面をもっていると考えられた。

第三回運営委と宿題委との合同委員会では農村計画のもつ諸課題が検討された。それをとりまとめてみると次のとおりである。

「農村計画」の類似概念に「農村建設」「農村開発」「村づくり」

「集落再編」「ふるさとづくり」などの言葉があるが、まずこれらの意味内容を明らかにする必要がある。つぎに「古い農村が崩壊しつつある、または崩壊した」ということは共通の認識としてあるであらう。とすれば、その古い農村とは何であったのか、また古い時代の封建的な共同体はどうなったのであろうか、という点も問題とならうし、「自作農体制」「農家」「農民層分解」も問題とならう。そして、来るべき新しい村や地域社会とは何が基礎となり、どのような形をとるであらうか。このために現在の地域農政や戦前の農政をもう一度見直す必要がある。さらに集落や生活の主體的再編成の力があったのか、どのようにして作り出せるのか、そしてまた、農業の規模拡大路線と地域ぐるみの対応との問題を検討する必要がある。このようにして、現在の三全総の定住圏構想と農村とのかわりも考えに入れるべきであらう。